

「訪ベトナム経済ミッション」概要報告

2018年3月

日本メコン地域経済委員会

日本・東京商工会議所の日本メコン地域経済委員会（委員長＝小林 洋一 伊藤忠商事㈱副会長、共同委員長＝猫島 明夫 川崎重工業㈱執行役員 マーケティング本部長）は、3月11日（日）から16日（金）まで、小林委員長を団長、猫島共同委員長を副団長とする経済ミッションを、ベトナムのハノイ、ダナン、ホイアン、フエに派遣、34名が参加した。

ハノイではティン国家副主席への表敬訪問、5回目となる計画投資省との協議会の実施に加え、両国経済界の相互交流を目的としてベトナム商工会議所との情報交換会を開催した。またダナンではトー・ダナン市人民委員会委員長への表敬訪問、フエでは現地進出日系食品企業を視察したほか、ホイアンとフエでは世界遺産に認定されている歴史遺産を見学した。

1 訪 問 先：ベトナム社会主義共和国 ハノイ、ダナン、ホイアン、フエ

2 日 程：2018年3月11日（日）～16日（金）

3 目 的

- ① ベトナム計画投資省との覚書に基づく第5回目となるビジネス環境整備を目的とした合同協議会の開催
- ② 両国民間経済界の相互交流の促進を目的とした、ベトナム商工会議所との共催による情報交換会の開催
- ③ APEC 開催や天皇・皇后両陛下ご訪問などで注目が高まるベトナム中部の実情把握

4 参 加 者：小林洋一委員長（団長）、猫島明夫共同委員長（副団長）をはじめ総勢34名

5 主な活動

① ハノイ

- (1) ダン・ティ・ゴック・ティン国家副主席への表敬訪問（3月12日（月））
- (2) 第5回ベトナム計画投資省との協議会（3月13日（火））
- (3) ベトナム商工会議所との情報交換会（3月12日（月））
- (4) 駐ベトナム日本大使主催昼食会兼ブリーフィング（3月12日（月））
- (5) ベトナム日本商工会との夕食懇談会（3月12日（月））

② ダナン

- (1) フィン・ドック・トー・ダナン市人民委員長への表敬訪問（3月14日（水））
- (2) ダナン日本商工会との昼食懇談会（3月14日（水））

③ ホイアン

- (1) ホイアン旧市街見学（3月14日（水））

④ フェ

- (1) フェフーズ社視察（3月15日（木））
- (2) フェ王宮建造物群見学（3月15日（木））

6 結果概要

① ハノイ

(1) ダン・ティ・ゴック・ティン国家副主席への表敬訪問（3月12日（月））

小林委員長は冒頭、人的交流や経済連携などの分野で両国のつながりは着実に強化されており、友好的な二国間の関係を基盤として、日本からの進出企業数や投資金額が順調に増加しているという現状認識を示した。

ティン国家副主席からはまず、クアン国家主席からのメッセージとして当ミッションの訪問を歓迎する旨が伝えられた後、ベトナム商工会議所(VCCI)と日商が連携して実施してきたこれまでの事業の実績を踏まえ、日越経済関係の発展に対する日商の貢献は大きなものがあり、感謝したいとの言葉があった。また、さらなる経済関係の発展に向けた重要分野として①農業技術、②国民生活に関係するサービス産業、③観光、④日本への技能実習生・留学生の帰国後の活動を含む教育、の4点が示された。



ティン国家副主席との記念撮影

(2) 第5回ベトナム計画投資省との協議会（3月13日（火））

2013年の第1回開催以来5回目となる協議会には、現地日系企業関係者を含めて日本側から約60名が参加して開催された。

冒頭のグエン・ヴァン・チュン計画投資省副大臣と小林委員長との開会挨拶に続く、セッション1「ベトナムにおけるビジネス環境整備上の課題について」では、当委員会メンバー企業を対象に事前に実施したアンケートの集計結果を踏まえ、小林委員長から日系企業にとってのベトナムの事業環境上の課題についての提言「ベトナム政府に望む」の説明がなされた。

「ベトナム政府に望む」要望事項

～日本企業が求める貿易・投資・ビジネス環境整備について～

- (1) 行政手続き、法・制度の運用適正化
- (2) さらなる経済発展のための交通インフラの整備・改善
 - ①都市交通インフラの整備・改善
 - ②南北商圏をつなぐ交通・物流インフラの整備・改善
 - ③拡大する航空需要に対応した管制能力、空港インフラの工場
- (3) 開かれたベトナム経済に向けた規制緩和、制度改正
 - ①四輪完成車に関する実質的な輸入規制の見直し
 - ②インターネットサービス事業者に対するベトナム国内でのデータ保管義務及び決済システムの国内設置義務の撤廃
 - ③デジタルAV機器の販売に関する認証制度の運用緩和、
ならびにASEAN域内での電気・電子製品に関する基準・認証の統一化推進
 - ④外国人労働者の社会保険および健康保険の任意加入化
 - ⑤30日以内の再入国時のビザ取得見直し

また、続いて発言を行った辛島裕・ベトナム日本商工会会長からは、当地進出日系企業が速やかな解決を期待している政策上の課題として①行政手続き改革の推進、②外国人強制社会保険加入の問題、③中古機械輸入規制に関する問題、の3点が挙げられた。

これらの要望に対してチュン副大臣からは「投資認可の過程が複雑で時間がかかるという課題は自らも承知している。国際ルールともずれているものもあり、今回の提案内容を整理して改善のための働きかけを行いたい」などの回答があった。



キヤノンベトナム
赤塚康人氏

続くセッション 2 のパート 1 では、「日本製造業から見たベトナム裾野産業への期待」と題するプレゼンテーションが、赤塚康人・キヤノンベトナム株式会社調達部長より行われ、日越が協力し、地域の中小企業が「チーム・ベトナム」として、専門技術の共有と部品・IT インターフェイスの共通化を図り、ネットビジネス時代に適応した「柔軟・俊敏・ローコストな生産体制」を構築すべきとする裾野産業育成への提案があった。

続くパート 2 では「ハイテク農業の将来性と課題」と題するプレゼンテーションがグエン・ゴック・フアン(Nguyen Ngoc Huan)・Tien Nong Group 社製品戦略 Director より行われ、世界的な経済統合が進む中、農業はベトナムにとって成長の原動力であり、センサーを活用した自動化やバイオ技術の活用など、ハイテク農業の推進が不可避であるとしたうえで、高度な技術を有する国々との連携を進めるため、関連する法・制度の整備が必要であるとの発表がなされた。

最後にチュン副大臣からは「この協議会はベトナムにとって極めて重要であり、進出日本企業が直面する課題の解決に引き続き取り組みたい」旨、また猫島共同委員長からは「日本側からの提言・要望の検討をベトナム側にお願いとするとともに、引き続き経済交流の促進の観点から対話を続けていきたい」旨、それぞれ挨拶がなされた後、閉会した。



第 5 回目となる計画投資省との協議会での記念撮影

(3) ベトナム商工会議所との情報交換会 (3 月 12 日 (月))

法制度の策定・改善やインフラの構築などでベトナムの投資環境の整備が着実に進み、また所得の増加により市場としてのベトナムの魅力が高まる中、日越両国の民間経済界の交流促進を目的とした情報交換会を本ミッションにおいてははじめて、ベトナム商工会議所(VCCI)とともに開催した。



アイキューブ
関戸範之氏

VCCI ホアン・クアン・フォン副会頭と小林委員長の挨拶に続くセッション 1 は「ベトナムのサービス産業における事業機会」をテーマに、まずベトナム側からチャン・ドゥック・フオン(Trần Đức Phương)・Phu Thai Holdings 社事業開発担当 Deputy Director よりベトナムを代表する卸事業者としての自社の事業紹介とあわせ、中間所得層が 2020 年には 3 千万人を超えるなどの消費市場としてのベトナムの魅力の説明があった。一方、日本側からは関戸範之・株式会社アイキューブ管理統括本部常務執行役員が「教育サービス業の海外進出—挑戦と変化」と題して、日本国内で進学塾を中心に教育サービスを展開する会社による、そろばん・日本語・読書・理科の各科目の授業をベトナム人生徒

に向けホーチミン市内の自前の教室で提供するという、ベトナム事業の紹介があった。

続くセッション2は「観光・交通」をテーマに、まずベトナム側からグエン・レー・フオン(Nguyen Le Huong)・Vietravel 社 Director より日越間の観光客の動向が報告されると共に、ベトナムから日本への観光客数のさらなる増加に向けた提案として、東京・富士山・京都・大阪といういわゆるゴールデン・ルート以外の地方における観光資源の提案が効果的ではないか、との意見が発表された。一方、日本側からは芝田浩二・ANA ホールディングス株式会社上席執行役員・グループ経営戦略室長より、堅調に増加する日越間の航空需要の最新動向の紹介とあわせ、2016年に締結したベトナム航空との戦略的パートナーシップの概要、ならびに Win-Win 関係のさらなる強化に向けた具体策についての説明があった。



ANA ホールディングス

芝田浩二氏



小林委員長とフオン副会頭との記念品交換

最後に、フオン VCCI 副会頭から「今後とも今回のような情報交換会を定期的に開催していきたい」、また猫島共同委員長からは「今回のテーマであるサービス産業と観光・交通産業が今後の日越経済連携で大きな可能性を有する分野であることを再認識した」、との挨拶がそれぞれなされ、閉会した。

(4) 駐ベトナム日本大使主催昼食会兼ブリーフィング (3月12日(月))

ミッション参加者全員が、駐ベトナム日本国大使館での昼食会にご招待いただくとともに、梅田大使から現地情勢と日越関係についてブリーフィングいただいた。大使からは、「世界有数の親日国であるベトナムは11カ国によるTPPの参加国であり、また、自由で開かれたインド・太平洋戦略を支持するなど、わが国と戦略的利益を共有する重要なパートナーである」としたうえで、少子化・労働力不足に悩む日本にとって、ベトナムからの技能実習生や留学生の急増に伴う諸課題への適切な対応が重要であるとの説明がなされ、緊密化する日越関係を多面的に理解する時間となった。



梅田邦夫大使

(5) ベトナム日本商工会との夕食懇談会 (3月12日(月))

本ミッションへの日本からの参加者に加え、辛島裕会長以下合計18名のベトナム日本商工会幹部の参加を得て、夕食をとりながら参加者相互の交流と情報交換が積極的に行われた。

② ダナン

(1) フィン・ドゥック・トー・ダナン市人民委員長への表敬訪問（3月14日（水））

冒頭、トー委員長からミッション一行の訪問を歓迎する旨の挨拶ののち、ベトナム第三の都市として観光・運輸・不動産を軸に過去 20 年間、平均して成長率 9～10%という早いスピードで発展しているというダナンの概要について紹介があった。

小林委員長からは、昨年のダナンでの APEC 首脳会議の成功裡の開催に対しお祝いを述べた後、自然の景観美の活用とインフラ開発により観光分野を中心としてダナンが着実に発展していること、また日系企業数や航空便数の増加が示す通り日本との経済関係も着実に深まっていることなどの現状認識を示したうえで、今回の表敬訪問を通じてダナンの事業・投資環境の理解をさらに深めたいと述べた。

日本側からはまた、観光振興、産業人材の育成、他都市（ハイフォン）と比較した際のダナンの企業立地上の魅力、についてそれぞれ質問がなされ、日本語対応可能な観光分野における人材育成に注力していること、投資優遇策を設定したハイテクパークがハノイ・ホーチミン以外で唯一立地する都市であることなどの回答がダナン側からなされた。



トー・ダナン市人民委員長（最前列右から 3 人目）との記念写真

(2) ダナン日本商工会との昼食懇談会（3月14日（水））

本ミッションの参加者に加え、滝沢悟会長以下合計 5 名のダナン日本商工会幹部の参加を得て、昼食をとりながらダナン市における日本企業の進出状況等に関する情報交換と、参加者相互の交流が積極的に行われた。

③ ホイアン

(1) ホイアン旧市街見学（3月14日（水））

ダナン市中心部から車で 40 分ほどの距離にある、世界遺産に認定された旧市街を見学。数時間の短い滞在であったが、街並みの中心的な存在である「日本橋」や、日本を含む近隣諸国との交易の歴史を記録する資料などを展示する建造物等を訪れ、一時は国際的な貿易港

として各国の商人たちの往来で栄えた、ベトナムを代表する歴史的な観光資源を保全するホイアンへの理解を深めた。



ホイアンの名所「日本橋」を前にしての記念撮影

④ フェ

(1) フェフーズ社視察（3月15日（木））



フェフーズ社の工場内見学

主要ホテルなどが立ち並ぶフェ市中心部から車で約30分ほどにあるフェフーズ社を視察。現地代表者である黒川邦彦・同社社長代理と関谷聡・製造担当役員の案内により、日本酒や焼酎などの酒類を製造する同社工場を見学した後、ベトナム進出の背景やベトナム現地人材の仕事ぶりや特徴、日本向け・ベトナム国内向けの販売の現状、また同社工場で製造する同社製品の紹介があった。

(2) フェ王宮建造物群見学（3月15日（木））

ベトナム最後の王朝であるグエン朝の栄華の面影を残す、世界遺産認定されたフェ王宮建造物群を見学。広大な王宮の全体に比して短い滞在時間であったが、建造物の歴史的な背景について理解を深めるほか、伝統芸能を鑑賞する機会も確保し、天皇工業両陛下も尋ねられたベトナムの古都への理解を深める時間となった。



フェ王宮内での記念撮影